

004

AW
2014

とわだじかん

TOWADA TIMES

ArtsTowada

とわだじかんは「美術館を見学後、十和田を旅する」ための情報紙です。



アート、お土産、
飲食店、宿泊、観光スポット…
十和田の情報が満載！

Arts Towada Web

「十和田の旅をより楽しく」をテーマに、さまざまな観光情報を掲載しているウェブサイトです。十和田に興味のある方、十和田をもっと楽しみたい方、ぜひご覧ください。



<http://www.artstowada.com/>

「Arts Towada Web」へのお問い合わせ先:

一般社団法人 十和田市観光協会

TEL.0176-24-3006

街なかに点在するアートや面白い場所。

ピカッと個性が光っている人。

ほっと癒される、思わず笑顔になってしまうような場面。

「とわだじかん 004」が、「また来るね!」と言いたくなるような

出会いのきっかけになれば嬉しいです。

自由気ままに十和田を旅してみませんか?

とわだじかん 004 訂正箇所のお知らせ

2014 年 11 月に発行した「とわだじかん 004」に、2015 年 5 月現在、次のような訂正箇所があります。お手数ですが、ご確認下さいますようお願いいたします。

ページ及び場所		補足・訂正内容
P2	十和田の暮らしと文化 A:十和田市立新渡戸記念館	「十和田市立新渡戸記念館」は現在休館しています。
P2	十和田の今へ続く「暮らしの美」道の駅とわだ とわだぴあ	「道の駅とわだ とわだぴあ」の facebook アドレスが変更になりました。変更後のアドレスはこちらです→ https://www.facebook.com/towadapia
P4	「まちなか MAP」 MAP	A3 エリアのガソリンスタンドは閉店しました。 「レストラン浜作」は現在休業中です。 「Happy TREE」は移転予定のため、現在休業中です。 「季楽亭」は現在「吉エ門」となっています。
P5	「まちなか MAP」 MAP	「十和田市立新渡戸記念館」は現在休館しています。 とうてつ交通タクシーは廃止されました。
P5	旅の情報収集&十和田 ならではのお土産アイテム	「とわだファミリーズのソックス」お問い合わせ電話番号が変更になります。お問い合わせ先 株式会社パワフルジャパン十和田 <TEL:0176-28-3611>
P5	旅の情報収集&十和田 ならではのお土産アイテム	「人面長いもボールペン」お問い合わせ電話番号が変更になります。 お問い合わせ先 松本茶舗 <TEL:0176-23-2138>
P8	特別展のご紹介	特別展「田中忠三郎」は終了しました。

※この正誤表は 2015（平成 27）年 5 月現在のデータに基づき作成しています。

※消費税の変更後の料金については各店・各施設へお問い合わせくださいますよう、お願いいたします。

十和田の暮らしと文化

美術館のある十和田市中心部一帯(三本木原台地)は、その昔、荒地で大変厳しい土地でした。そのような場所を先人たちは開拓し、北国の寒さに耐え、馬とともに暮らしてきました。また、綿花の育たないこの地域では貴重品であった布を大切にしてきました。その精神は、様々な形で地元の生活の中に受け継がれています。ここでは、そのような当時の十和田の暮らしや文化に触れることができる施設をご紹介します。

A

十和田市立新渡戸記念館

MAP P5 B-4 美術館から徒歩15分



新渡戸稲造の祖父・傳

十和田市は、新渡戸稲造の祖父・傳、父・十次郎など先人の手で人工の川「稻生川」が造られ、新しく拓かれた街です。碁盤の目状の市街地は十次郎による都市計画で、記念館所蔵の絵図面や古文書、穴堰(トンネル)掘削工具等から整然とした十和田市街地の起源を知ることができます。大正時代、稲造博士が傳の墓所太素塚に置いた文庫が前身の記念館で、稲造の遺品やイサム・ノグチ作「稲造博士顔像」も必見。入口の大きな鳥居型門が目印です。

料金 【大学生・一般】210円(団体180円) 【小・中・高校生】54円(団体43円) ※団体は20人以上以上 **時間** 9:00-16:00 **休** 月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、年末年始 **TEL** 0176-23-4430 **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市東三番町24-1

開拓資料と
道具たち



なかづる

てんばづる

ばんづる

B

十和田市馬事公苑 (駒っこランド) 馬の文化資料館 称徳館

MAP P4 広域 美術館から車で15分



語りべによる民話



馬具館では馬装具などが展示されています

人と馬の
文化と民話

十和田市の発展は、馬産なくしては語ることができないと言われています。十和田市馬事公苑(駒っこランド)内にある称徳館は、全国でも珍しい馬の文化資料館として数多くの資料が展示されています。人と馬との歴史や文化を8つのテーマごとに観覧でき、昔の民家を再現したシアターでは語りべによる民話の上演が楽しめます。併設されている駒っこ牧場では乗馬体験などができ、広大な芝生広場には様々な遊具がいっぱいです。

料金 【一般】300円(団体240円) 【高校・大学生】100円(団体82円) 【中学生以下】無料 ※団体は20名以上 **時間** 9:00-16:30(最終入館16:00) **休** 月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、年末年始 **TEL** 0176-26-2100 **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市大字深持字梅山1-1 **備考** 語りべによる民話は日曜日、祝日の①11:15から②13:45から。※12月から3月はお休みとなります。団体などの事前予約は通年可能ですのでお問い合わせください。

D

十和田湖民俗資料館 と旧笠石家住宅

MAP P4 広域 十和田観光電鉄バス「十和田市～焼山線 焼山行き」約30分 片貝沢下車、徒歩約20分



地域住民から寄贈された展示物／写真提供:十和田市



国の重要文化財／photo:小山田 邦哉

民俗資料館では、実際に使用された貴重な衣服や食器などの生活用具に、直接手で触れてみることでできます。隣接している旧笠石家住宅は、この地域の典型的な農家建築で、国の重要文化財に指定されています。

料金 【一般・大学生】102円(団体82円) 【小・中・高校生】51円(団体41円) ※十和田市民は無料 ※団体は20人以上 **TEL** 0176-74-2547 **時間** 4月から10月 9:00-16:30 / 11月から3月 9:00-16:00 **休** 火曜日、年末年始(12月29日から1月3日) **駐車場** あり **住所** 十和田市大字奥瀬字栃久保80

民具と建築

C

十和田市郷土館

MAP P4 広域 十和田観光電鉄バス「十和田市～焼山線 焼山行き」で約25分 十和田湖支所前下車、徒歩1分



農家の暮らしを再現／写真提供:十和田市

十和田の様々な歴史資料がご覧いただけます。中でも昭和20年頃の農家の台所の様子を再現したコーナーや、麻布や絹布織り用の機具、裂織の地機などの展示からは当時の暮らしや手しごとを伺い知ることができます。

料金 無料 **TEL** 0176-72-2340 **時間** 9:00-17:00 **休** 月曜日、年末年始(12月29日から1月3日) **駐車場** あり **住所** 十和田市大字奥瀬字中平61番地8

暮らしと
手しごと

十和田の今へ続く「暮らしの美」

E

匠工房「南部裂織の里」

MAP P4 広域 美術館から車で15分



南部裂織は、地機に綿の糸をはり古布を裂いて横糸にして織る、温もりのある織物。

古民家風の造りで貴重な古道具も見ることができる施設内では、伝統工芸品「南部裂織」の体験をすることができます。グループでの体験をされる場合は事前にお問い合わせください。旅の途中に立ち寄って、糸や古布に思いを馳せながら、世界に一つだけの自分の裂織を織ってみませんか。

TEL 0176-20-8700 **facebook** <http://www.sakiori.jp/> **時間** 10:00-16:00 **休** 月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日) **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市大字伝法寺字平窪37-21 道の駅とわだ とわだびあ内

南部裂織保存会について

1975年7月7日七夕(棚機)の日、故・菅野咲子先生によって、裂織の普及と伝承のために設立された団体です。「暮らしに創る喜びを 手仕事の温もりをいつまでも」をモットーに裂織の楽しさを広めながら、伝統的な作品ばかりでなく現代生活にマッチした商品も制作販売しています。



道の駅とわだ とわだびあ

MAP P4 広域 美術館から車で15分



新鮮な野菜と手作り惣菜、地元のものを使った加工品などが豊富に取り揃えられています。

TEL 0176-28-3790 **facebook** <http://www.facebook.com/towada.michinoeki.3> **時間** 11月から3月 8:00-19:00 / 4月から10月 7:00-20:00 **休** 年中無休 **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市伝法寺字平窪37-2

ここ・これ ごはん

美味しい水と肥沃な土で育った元気な野菜。豊かな自然に育まれた良質なお肉。そんな、自然の恵みがぎゅっと詰まった十和田の食材たちを、この土地ならではの料理で味わってみてください。今回は「古民家」の中で、落ち着いて食事をたのしめるお店をピックアップしてみました。ぜひ、おいしい十和田をご堪能ください。

PICK UP!

A



農園カフェ ひびき 日々木

カフェ

P4 広域 MAP 美術館から車で15分



古民家でありながらモダンな雰囲気のお店です。野菜ソムリエが厳選した十和田産野菜中心のヘルシーな料理がいただけます。一日40食限定「農園ご盛ランチ」(サラダ、ドリンク付き) 1,000円は、カロリーや塩分にも気を使った体に優しいランチ。十和田の米粉農家さん手づくりのケーキが味わえる「季節のシフォンケーキセット」(飲み物付き) 800円や、「ブルーベリーフレッシュジュース」500円は自慢の一品です。店内にはギャラリーコーナーがあり、オーナーセレクトの工芸品や作家の作品が展示販売されています。

時間 4月から11月 11:00-16:00 / 12月から3月 11:00-15:00 **休** 水曜日、お盆、年末年始 **TEL** 0176-27-6626 **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市大字相坂字高見147-89

C

ハピたのかふえ

コミュニティカフェ

MAP P4 B-3 美術館から徒歩10分



農家さんから仕入れた新鮮野菜を使用して、野菜ソムリエと考案したメニューが人気。中でも、旬な野菜で彩られた「十和田産長芋ふわっふわ!ハンバーグ」800円(※ランチセット)は、すりおろした長芋をつなぎに使用。女性におすすめ! **時間** 11:00-18:00 (L.O.16:00) **休** 日曜日、祝日 **TEL** 0176-23-0853 **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市稲生町15-24 とわだバルコビル4F **備考** 事前予約がオススメ

E

とうてつ駅そば

そば・うどん

MAP P4 C-3 美術館から徒歩10分



2012年に廃線となった十和田観光電鉄駅舎にあったそば屋がまちなかに移転。店内には鉄道写真が飾られ、かつての雰囲気が残ります。『駅そば』は地元人にとって故郷の味。おすすめは「スペシャルそば(天ぷら・生卵・山菜)」420円。 **時間** 7:00-19:00 **休** 無休 **TEL** 0176-23-5152 **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市稲生町17-3

G

馬肉料理 吉兆

馬肉料理

MAP P4 C-3 美術館から徒歩15分



十和田では馬肉はポピュラーな食材。馬肉鍋も人気ですが、湯豆腐と焼肉が同時にできる「義経鍋」一人前1,410円もおすすめです。余分な油は鉄板の下に流れ落ちるのでヘルシー。馬肉は鉄分豊富なので、女性にもぴったりです。 **時間** 昼11:00-14:00 / 夜17:00-22:00 **休** 日曜日 **TEL** 0176-24-9711 **駐車場** あり **住所** 十和田市西三番町15-4

FOOD

B



布工房 ひびき ギャラリー Cafe

カフェ

P4 広域 MAP 美術館から車で10分



住宅街の路地奥にある隠れ家的なお店です。店内に入ると、裂織職人で布工房を主宰する店主の野崎弘子さんの作品や瑞々しい草花が飾られ、大きなテーブルが実は蔵の扉をリメイクしたものだったり、アンティークで居心地の良い空間が広がっています。秋から冬には温かな暖炉も!コース料理は、ハーブも使われ、野菜中心なので女性にも嬉しい内容です。おすすめは手づくりのバジルソースが香る、もちもちした食感のうどんスパゲッティ。食後のデザートやコーヒーもついて1,000円というリーズナブルな料金も魅力です。店内にはオーナーによる裂織作品も展示され、購入することもできます。

時間 11:00-19:00 **休** 月曜日、火曜日、水曜日 **TEL** 0176-25-3808 **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市大字相坂字小林132-1 **備考** 事前予約がオススメ

D

カフェ オルタ cafe orta

カフェ

MAP P4 B-3 美術館から徒歩10分



オーナーシェフ自らが農園で生産した有機野菜を使った、農園カフェレストラン。「キッチンセット」590円や「日替わりバスタランチ」750円が人気。季節の手づくりスイーツもお楽しみください。 **時間** 昼12:00-16:00 ※夜18:00-22:00 (L.O.21:00) **休** 毎週月曜日、毎月第1・3火曜日 **TEL** 0176-25-0185 **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市稲生町15-16 中央ビル1-1 **備考** 4月から10月は平日のランチはお休み

F

すし 八助

寿司

MAP P4 C-3 美術館から徒歩15分



粋な大将が握る寿司はどれもこだわりが光る一品。茶碗蒸し付きのお得なランチメニュー「寿司セット」「ちらしセット」各950円もおすすめ。十和田で唯一、押し寿司「パテラ」800円が食べられるお店でもあります。 **時間** 昼11:30-14:00 / 夜17:00-23:00 **休** 不定休 **TEL** 0176-23-4388 **駐車場** あり **住所** 十和田市稲生町20-18

H

バラ焼き大衆食堂 司

バラ焼き

MAP P4 B-3 美術館から徒歩5分



B-1でおなじみの十和田バラ焼きゼミナール監修のお店。下味のついたバラ肉と大量のたまねぎを炒める鉄板料理。「十和田バラ焼きランチ」700円は、レクチャーを受けながら自分で調理。お店の人との会話も楽しんで。 **時間** 11:00-14:30 (L.O.14:00) / 17:30-23:00 (L.O.22:30) **休** 月曜日 **TEL** 080-6059-8015 **駐車場** あり **住所** 青森県十和田市稲生町15-41

5

まちを取材「まちねた部」

美術館コンシェルジュが取材して見つけた、十和田のまちのホットなスポットやお店、人物など、まちなかの知られざる物語をご紹介します。
美術館だけでなく、十和田のまちを巡り、十和田に流れる時間を感じてみてください。
今号は、「手しごと」をされている方々の取り組みや想いなどを取材しました。十和田で息づく「ものづくり」の精神をご覧ください。



つり飾り愛好会の展示会の様子

つり飾り(吊るし飾り/つるし雛)

伝統工芸のひとつで、山形の笠福、静岡の稲取、九州のさげもんが日本三大つるし雛(つり飾り)とされています。布でつくられた人形や小物などには、それぞれに成長祝い、縁起もの、親の願いなどが込められています。

001

松坂つやさん (つり飾り愛好会)

まごころもった布小物、願いのつまったつり飾り

＼ 詳細はblogにて! ／



手芸がもともと好きだったという松坂さんは、布小物や古布を使った作品を多数製作されており、現在はつり飾り愛好会の代表として精力的に活動されています。
昔、テレビで紹介されていた山形のつり飾りを見て興味を持ち、実際に山形の酒田へ本物を見るため足を運びました。そこでつり飾りの素晴らしさに感動し、以来、十和田でつり飾りの魅力を伝えるべく、つり飾り愛好会の生徒の皆さんを指導しています。これまでにつくった作品は、手のひらにおさまる小さな可愛い人形から、大きな壁掛けのパッチワーク作品などさまざま。多くの手しごとを経験した美しい手が生み出してきた作品は数え切れないほどです。現在では「ギャラリー&布カフェ WA楽」にて教室を開くかわら、制作した作品を展示会で発表しています。



布小物の作り方を教えています



教室は和やかな雰囲気

002

ギャラリー&布カフェ WA楽 つながる輪、ひろがる和、みんなの〈わ〉

＼ 詳細はblogにて! ／



時間 10:00-15:00 (休)月曜日、火曜日、水曜日、日曜日 TEL 090-4639-1246 (三浦)

駐車場 あり 住所 青森県十和田市東5番町10-15

※美術館からおおよそ徒歩分20分

店の名前の由来は、みんな「わ」になって手をつないで、仲良く楽しく過ごして欲しいということから名付けられました。「わ」には和、輪、つながりなどの思いがこめられています。また、店内には布雑貨や古い着物やちりめんで作られた雑貨が所狭しと展示、販売されています。お昼は、健康的なおかずいっぱい「WA楽さまぐれランチ」800円、クリームとブルーベリーソースがたっぷり添えられた「シフォンケーキセット」500円のケーキはしっかりとふわふわ。お店では木・金曜日に松坂つや先生と吉田こと先生、土曜日に林いく子先生による「布小物づくり教室」があります。土曜日は一日でできるものを制作しているので、初めての方も一日制作体験ができます。古布や布雑貨が好きな方はぜひ訪れて頂きたいお店です。



布雑貨や古布などの販売スペース



美味しいおかずの詰まったランチ



クリームたっぷりのシフォンケーキ

MACHI×NETA



まちねた部の活動の紹介は
blogにてご覧いただけます



教えあってみんなでつくります



いろとりどりのブラカゴ



ものづくりとおしゃべりを楽しみながら

003

やそかい 伝承 八十の会

伝えていくこと、
チャレンジしていくこと

＼ 詳細はblogにて! ／



会の名前には、前会長 故・漆坂ミジさんを見習って「80歳まで元気に手しごとを続けられるように」と願いが込められています。「高齢者ほど敬われる」ということで、80歳を超えたら誰でもみんな副会長になれるというおもしろい決まりもあります。これまでは、この地方ゆかりのものを伝えていこうと、小学生に天秤棒など昔の道具の使い方やお手玉、数え歌など昔の遊びを紹介する活動をしてきました。最近新しい取り組みとして、若手クラフト作家 miu.laboさんをアドバイザーに迎え、プラスチックのヒモで編むカラフルなカゴづくりに挑戦しています。「つくって楽しむ」「おしゃべりも楽しむ」を大事にしているという会のみなさん。会長の鈴木さんは「昔のことを伝えていくのも大事。でも、新しいことにチャレンジしていくのも大事だと思います。何より、その方が楽しいですね。」とお話していました。

クラフト作家 みうらぼ miu.laboさん

004

「出来なかったことが出来るうれしさ」を広げていきたい

＼ 詳細はblogにて! ／

Blog

『あみぐるみ・クラフト作家、そしてこけし♡ Miu.Labo』

<http://ameblo.jp/miulabo630/>

facebook

<https://www.facebook.com/miulabo55>



個性溢れるこけしストラップ、とんがりニット帽、ハンコ、地元企業とコラボした反射材を使ったブローチといった、可愛いだけでなくちょっとユニークな雑貨を手づくりしているのがmiu.laboさんです。県内の様々なイベントに参加し、雑貨の販売だけでなく、小さな子どもから大人まで幅広く参加できる手づくりワークショップを開催しています。「やるからには楽しむ」をモットーとしているmiu.laboさん。できるだけ参加者が楽しみながら物づくりができるように心がけているそうです。「雑貨づくりなんて自分に出来ない」と思っていた参加者が、ワークショップを通して「自分にも出来るんだ!」と変わっていくのを身近で見れるのが嬉しいと話していました。可愛い雑貨やものづくりが好きな方はmiu.laboさんのblogやfacebookをぜひご覧ください。



楽しそうにものづくり



人気の雑貨「マトちゃん」



子ども大人も夢中!

04 INFORMATION

十和田奥入瀬プロジェクト

「十和田食堂(仮称)」

～十和田の食卓とその記憶～

プロジェクトのご紹介

このプロジェクトでは、横浜、代官山、石巻、前橋の各地で家庭の味を探索してきたアーティストの増田拓史さんと共に、家庭料理のリサーチを通して現在の十和田の人々の姿や記憶、そしてこの街の地域文化を記録し後世へ伝えていくことを目指しています。第1回目のリサーチ活動として、7月12日に美術館屋外のアート広場にて、翌日には焼山地区の温泉施設「市民の家」の集会所にてお食事を開催しました。当日は参加者の方々に思い入れのある料理やこの地域ならではのおかずなどを持ち寄っていただきました。それぞれに土地の特色ある料理や思い出の一品などがテーブルに並び、その料理にまつわるエピソードを聞きながら、美味しいお料理に舌鼓を打つ楽しいお食事会となりました。普段作ったり食べたりしている料理の背景に、地域の特徴や世代を超えて受け継がれて来た歴史を垣間見ることができます。今後もこのプロジェクトでは、十和田のみなさんのふるさとの味や記憶に残っている料理など、地域の食にスポットをあて、お食事会やリサーチ活動を展開していきます。どうぞお楽しみに。



増田拓史 (ますだ ひろふみ)

1982年生まれ。横浜美術短期大学卒業。近年では日常の家庭料理にフォーカスをあて、個々人の出自や地域性を再発見し後世に伝える食堂プロジェクトを展開している。主な活動に、2013-2014 年「前橋食堂/アーツ前橋地域アートプロジェクト」(群馬)、2011年「代官山食堂/代官山インスタレーション2011」(東京)、2011年「黄金食堂 / 黄金町バザール2011」(横浜)、2010-2011年「Treasure Hill Artist Village Public Art Project」(寶蔵閣国際芸術村/ 台北・台湾)など

特別展のご紹介

『田中忠三郎が伝える精神』 2014年11月1日(土) - 2015年2月15日(日)



忠三郎コレクション数十点の衣服等と、現代の様々なジャンルの作品を展示し「縫う」「刺す」「繋ぐ」等の行為の向こうに現れる精神世界の「美」、自然の普遍的な法則に組み込まれた「美」を探ります。

参加作家: 田中忠三郎、天羽やよい、泉山朗土、平田哲朗、伏木庸平、村山留里子、山下陽光、リトゥンアフターワーズほか

田中忠三郎(1933年-2013年)

民俗学者・民俗民具研究者・著述家。民具の調査・収集に奔走してきた在野の学者で、私有する2万点以上に及ぶ民具・衣服などの貴重な日本のアンティークコレクションでも有名。これらコレクションは柳宗悦、青山二郎、白洲正子らの流れを汲む「用の美」を体現するものとして、その審美眼も高く評価されている。



書籍のご紹介

十和田、奥入瀬にまつわるものがたり集

『十和田、奥入瀬 水と土地をめぐる旅』

編: 菅啓次郎 十和田奥入瀬芸術祭 / 小説: 石田千、小野正嗣、小林エリカ / 写真: 畠山直哉
発行: 青幻舎 / 定価: 1,800円 + 税 / ISBN: 978-4-86152-407-3



十和田湖・奥入瀬渓流・十和田市に魅了された作家による地誌とフィクションを融合する新しい試み。複数の時が重なる青森の土地を、気鋭の作家たちがめぐり物語をつむぎます。詩人の菅啓次郎を編者として迎え、気鋭の作家が十和田、奥入瀬を題材にした三篇の小説や写真家・畠山直哉が撮り下ろした新作写真も収録。菅啓次郎の紀行エッセイをはじめ、高山明、宮永愛子ら十和田奥入瀬芸術祭2013参加作家のテキストも掲載されています。

常設展示作家シリーズ④ 現代アートと伝統文化の新しい関係



マイケル・リン「無題」 © Mami Iwasaki

常設展示作品「無題」の作者マイケル・リンさんにお話を伺いました。マイケル・リンさんは、伝統的なアジアのテキスタイル(織物、布地)のパターンを使い、建物や空間に色鮮やかなペインティングを行う作品で知られています。十和田市現代美術館では、人々が憩う休憩スペースの床面に、南部裂織から着想を得た色鮮やかなペインティング作品を展開されています。

——マイケル・リンさんの作品は、活き活きとしたエネルギーを感じます。作品を制作する際のテーマやこだわりなどを教えてください。

私はいつも作品を展示する場所がどうい

ろであるかに関心を寄せています。多くの場合、私のインスピレーションは訪れた場所とそこで出会った人々から受けるからです。

——十和田市現代美術館の常設展示作品は、十和田の伝統工芸である南部裂織に影響を受けてつくられたとお聞きしております。南部裂織についてどのような感想をお持ちですか？
私は、南部裂織にひとつのリサイクルのモデルとしてとても興味を持ちました。それは、古くて「使いみちのない」ように思える布を組み合わせることで、新しく美しい何かをつくりあげ、またそのものに生命と意味を与えるようなコミュ

ニティのモデルでもあったと感じたからです。

——今後、どのような試みをされる予定ですか？
これからは、現代アートと伝統文化の新しい位置づけと関係を探し求めていこうと思っています。



マイケル・リン

1964年東京生まれ。現在上海、ベルギー、台湾を拠点に国際的に活動するアーティスト。伝統的な台湾テキスタイルのモチーフを使い、建築空間に大型のペインティングを行い、世界的な評価を受けました。美術館にとどまらず、パブリックスペースに展開された作品は多くの人々を魅了します。

編集後記

今号は特別展「田中忠三郎が伝える精神」をより楽しむヒントになる十和田の『歴史』と『ものづくり』にスポットを当てています。とわだじかん004を制作するにあたって快く取材に応じてくださったみなさま、本当にありがとうございました。

お問い合わせ先 十和田市現代美術館 青森県十和田市西二番町10-9 TEL 0176-20-1127 info@towadaartcenter.com

http://towadaartcenter.com/ http://www.facebook.com/artstowada 発行: 十和田市現代美術館 コンシェルジュ アートディレクション&デザイン: 加藤賢策・内田あみか (LABORATORIES)